

ドイツ・ブレーメン経済工科大学
交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部
国際言語文化学科 3年

私は、2023年4月1日から、2024年3月1日のおよそ11か月、静岡県立大学の交換留学生として、ドイツのブレーメン経済工科大学に留学をしました。

今回は、言語、日常生活、旅行、そして最後に留学を終えて学んだことの主に4つの点について、まとめました。

① 言語

まず、言語の上達についてです。私はもともとこの留学の目的は英語とドイツ語の上達でした。英語にはもともと興味があって、よりスキルを上達させたいと思っていましたが、その中でも私の一番の課題は、スピーキング力でした。日本にいた今までは、話す機会が全くといっていいほどなかったのも、ドイツに来て、ドイツ人の英語の能力の高さに驚きました。ドイツではもちろんドイツ語が母国語ですが、ほとんどの人は英語も流暢に話すことができます。他の国の大学から来ている留学生との交流や、学校での書類など、その他の重要なことについては全て英語で行われていました。

私はやはり、英語が好きだったので、英語に触れることはすごく良かったのですが、それと同時に自分の能力の低さも目の当たりにしました。自分の中ではもっとこう言いたいのに英語が出てこなかったり、英語を英語で理解するのではなく、どうしても頭のなかで日本語を考えて英語に訳したり、というあまり好ましくない現状でした。

さらに、もう一つの課題も浮かび上がってきました。それは、私にとって同時に二つの言語を学ぶことはどちらの言語上達に良くないということでした。英語とドイツ語がお互いに似ていると一般的に言われていますが、やはりそこには大きな違いがあり、話す時はいつも私の頭の中で混乱してしまいました。なので、私はドイツにいるということもあり、ドイツ語だけに集中しようと決めました。そうしたことで、この1年間で、もう一度自分で自分を見つめ直し、そして自分に合った勉強法を模索し、見つけることができたと思います。

② 日常生活

日常生活の大半を、私は学校で過ごしていました。私の住んでいた部屋は比較的小さい方だったので、そのような場所に長時間いることは、すぐくストレスの溜まることでした。学校にいて、気分転換にもなり、たくさんの友達にも会えることができたので、私にとってもう一つの家のような気分でした。また、生活していく上で日本ではないような驚きも、たくさん経験しました。その中でも日曜日はほとんどのお店が営業していないということや、町のあちこちで工事していたことは私にとっては意外でした。



それと同時に街に一步出ると、多くの危険もありました。海外に留学する際に、事前に気をつけておくべきこととして聞いていたことは、貴重品は盗まれやすいから常に気をつけるべきだということや、夜出歩くことは危ないから外出しない方がいいという、ありきたりなことでしたが、実際には例えば、ブレーメンの中央駅の周りには、変わった人がいて、お金を乞うために、声をかけてくる人もいたり、すごく怪しそうな集団が騒いでいたり、また夜中に何か爆発するような音が聞こえ、とても驚いた覚えがあります。ドイツは比較的安全な国だと思いますが、このような危険も潜んでいるので注意した方がいいと思います。

③ 旅行



長期休暇の際には、何カ国か旅行に出かけました。ドイツに来る前には、ほとんど日本にいたので、ドイツ人の友人からヨーロッパのいろんな国に行ったことがあるという話を聞いた時にはとても驚きました。旅行をすることが主な留学の目的ではないので、勉強や普段の日常に支障が出ない程度にヨーロッパを回っていました。

ヨーロッパは陸続きであるため、バスや電車を使っての旅行でしたが、日本からヨーロッパに旅行するよりも確実にいい条件で行けるので、長年の夢であった、イギリスやフランスに行くことができ、とても嬉しかったです。

④ 一年を通して学んだこと

この1年間本当に色々なことを吸収し、学ぶことができたと思います。楽しいこと、辛いことさまざまでしたが、どの経験も私にとって貴重でした。私は今までは何か新しいことに挑戦し、それをやり遂げることに大きな不安を感じて、どうしても勇気が出ずにいました。失敗への不安や、自分はどうせできないからという半ば諦めがありました。しかし、1年間異国の地でそういった状況に追い込まれたことは何回もあり、この状況から逃げてばかりいては、自分は成長することができないことと、自分を変えたいと思っていたので、今まで経験したことのないことにも挑戦するように努力してみたところ、いい経験になったことばかりでした。何事にも自分のやってみたいことに挑戦できたことは、本当に良かったです。



最後ですが、一年の留学を通して自分がどのくらい家族や、友達、先生方に支えられているのかを改めて感じました。1年間ドイツに行かせて良かったと思えるように、これからも精進していきたいと思います。

ドイツ
ブレーメン州立経済工科大学
交換留学報告書

国際関係学部 国際言語文化学科 3年



1年生のころから在学中に留学したいと考えていました。初めは英語圏の大学を希望していましたが、ドイツ語を地域言語で学んでいたこととクリスマスマーケットへの憧れからドイツ留学を決めました。

1. 大学について

International Business という学部には派遣されましたが、経済やマーケティングなどの知識がなかったため ZLL コース（県大の全学共通科目のようなもの）から Academic Writing と Intercultural communication の授業を取っていました。授業時間が県大より長くとても驚いたことと、集中力がなかなか続かなかったことを覚えています。授業の中では自分の意見だけでなく、日本の生活スタイルや文化、日本人としての思考などを聞かれることもあり、発言の機会を多く得ることができました。

ブレーメン州立経済工科大学には AWS と呼ばれる日本語学科があります。学生たちは日本語を学び、日本の歴史やビジネス、マーケティングなどの勉強をしています。彼らにとって私たち日本人留学生は貴重な日本語の先生の一人であり、多くの学生が私たちとタンデム（言語交換）をしたいと思っています。私もタンデムパートナーがいて、週に何回か食堂で会っていました。タンデムでは、表現や単語が分からなくてもとにかく伝える努力をしていました。知らない言葉やネイティブが使う表現などをお互いに教え合ったり、ドイツと日本の文化の違いについて話し合ったりしました。時には家にお邪魔して一緒に日本料理を作ったり映画を見たりと楽しい時間を過ごすこともできました。

2. 生活面について

私はシェアハウスで共同生活していました。フラットメイトは留学生かインターン生で、インド、インドネシア、スペイン、ポルトガル、ブラジル、モンゴルなどから来ていました。共通言語は英語で、時間が合えば一緒に料理をしたりホラー映画を見たりしました。生活の中で意見の違いや主に掃除についてのトラブルがありましたが、お互いを尊重し合うこととよく話し合うことの大切さを学びました。物件探しの際にロケーションに重きを置いていたせいで、ブレーメンの家賃相場を知らないまま部屋を契約したのが少し残念な点だったと思いました。

学生はゼメスターチケットという定期のようなものを持っているため、ブレーメン市内のトラムとバス、ブレーメン近郊への電車が無料で利用できます。注意点は、日本はバスも電車も基本的に時間どおりに運行するのに対して、ドイツでは遅延やキャンセルは頻繁にあるのに加えストライキで運行中止になることがあることです。FahrPlaner と DB Navigator のアプリを活用して日々の運行状況を確認していました。

3. 旅行について

前述したゼメスターチケットでハンブルクやハノーファーなどブレーメン周辺に気軽に行くことができます。また、ICE や IC などの高速列車に乗って他の市への旅行も楽しめます。ヨーロッパの中央に位置するドイツは、隣国へのアクセスがしやすく比較的手ごろな価格で旅行が可能です。私もドイツ鉄道や Flixbus（高速バス）を利用して長期休みに数カ国旅行に行きました。アジア人であると言うだけでヨーロッパではスリなど犯罪の対象になりやすいので、ブレーメンでも他国でも訪れる際は対策をしっかりとし、夜はあまり出歩かないように心掛けました。

また、クリスマスマーケット巡りはドイツ留学での個人的な目的の一つでした。クリスマスはドイツでは大きな行事で、各市で早くて11月下旬から12月23日ごろまでクリスマスマーケットが開かれます。寒空の下、ホットワインやホットチョコレート、焼き立てのソーセージなど伝統的な料理で体を温めながら美しい装飾と雰囲気を楽しみます。飲み物が入っているカップはそれぞれの市で異なり、持ち帰ることができるのでコレクションをする楽しみもあります。私は、合計12か所のクリスマスマーケットを回ることができました。



4. これからドイツ留学を考えている方へ

留学の情報は自発的に収集することが大切です。留学の際、市民登録や閉鎖口座の開設、公的保険の加入など行うべきことが色々あります。不明点や疑問点は、派遣先大学や国際交流室、担当教員、留学経験者に問い合わせましょう。

私が今回の留学で個人的に後悔した点は、積極性に欠けていたことです。自分から進んで交流の場に顔を出したり話しかけたりすることが交友の輪を広げるきっかけとなります。留学するときは、「せっかくドイツに来たのだから！」という気持ちでより多くの人と関わりを持つと良いと思います。